

# 奨学金制度に関する最近の施策

1. 給付奨学金の拡充 (P.2)
2. 令和元年度 奨学金事業 採用状況 (P.4)
3. 令和2年度奨学事業予算要求の概要 (P.5)
4. 所得連動返還方式 (P.6)
5. スカラシップ・アドバイザーの派遣について (P.8)
6. 進学資金シミュレーター、奨学金貸与・返還シミュレーション (P.10)

# 1. 給付奨学金の拡充 ①高等教育の修学支援新制度

## 高等教育の修学支援新制度

【対象となる学校種】国又は自治体による要件確認を受けた

大学・短期大学・高等専門学校・専門学校

【対象となる学生】住民税非課税世帯 及び それに準ずる世帯の学生

(令和2年度の在学学生[既入学者も含む]から対象)

【支援の内容】給付奨学金の支給の拡充 及び 授業料等減免制度の創設

(JASSOはこのうち給付奨学金の支給を担当)

【その他】第一種(無利子)奨学金と併用する場合、第一種奨学金の貸与月額が調整される

### 【制度開始までのスケジュール】

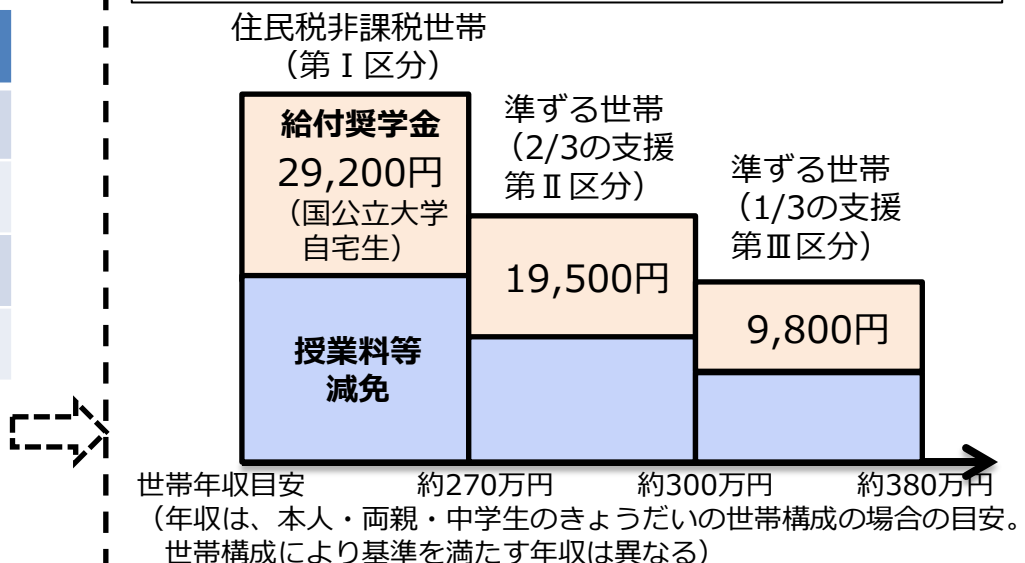
令和元年	5月	修学支援法成立
	6月～	予約採用の募集開始
	9月	対象大学等公表
	11月	在学中の者の募集開始
令和2年	4月	支援開始

## 給付月額の例

区分 (高専除く通常の課程)		給付月額※
国公立	自宅生	9,800～29,200円
	自宅外生	22,300～66,700円
私立	自宅生	12,800～38,300円
	自宅外生	25,300～75,800円

※支援の区分は、毎年の適格認定によって見直されます。  
(給付月額が変動したり、支給が止まることがあります。)

### 【収入基準による支援の区分と給付月額のイメージ】



## 対象者の主な要件 (基準)

### (1) 家計に係る基準

収入基準と資産基準について、いずれも一定額以下であること。

### (2) 学業等に係る基準

評定平均値が3.5以上であること 又は 学習意欲等が確認できること (高校生等が予約採用に申し込む場合)。

# 1. 給付奨学金の拡充 ②併給の場合の第一種奨学金貸与月額

## 新たな給付奨学金受給中の第一種奨学金貸与月額（学部の場合）

区分	国公立		私立	
	自宅通学	自宅外通学	自宅通学	自宅外通学
<b>第Ⅰ区分</b> (住民税非課税世帯の者)	0円	0円	0円	0円
<b>第Ⅱ区分</b> (住民税非課税世帯に準ずる世帯の者)	0円	0円	0円	0円
<b>第Ⅲ区分</b> (住民税非課税世帯に準ずる世帯の者)	20,300円	13,800円	21,700円	19,200円
<b>&lt;参考&gt; 給付奨学金を受給しない場合</b>	45,000円	51,000円	54,000円	64,000円

### ■ 給付奨学金

- ◆ 令和元年度採用 [給付対象者：20,000人]

10月までの累計で、**18,918人(2,667校)**の採用を決定した。

- 令和2年度進学予定者を対象とする予約採用 [適格者全員採用]

6月より採用候補者の推薦を受け付けた。(審査・集計中)

審査・選考のうえ採用候補者を11月下旬以降、順次決定する。

### ■ 貸与奨学金

- ◆ 第一種奨学金の採用状況

**194,472人** (4月～10月累計、前年度比 **約1,705人の減**)

- ◆ 第二種奨学金の採用状況

**224,743人** (4月～10月累計、前年度比 **約5,121人の増**)

### 3.令和2年度奨学事業予算要求の概要

#### 予算額

(単位：億円)

区 分		令和元年度	令和2年度要求	比較増△減	
事業費合計 (A+B+C)		10,638	-	-	
給 付	事業費総額 (A)	152	-	-	
	財源 国庫補助金	140	-	-	
(無利息) 第一種	事業費総額 (B)	3,724	4,091	367	
	財源	政府貸付金	1,029	1,406	377
		民間資金借入金	328	456	128
		返還金等	2,367	2,605	238
償還分		0	△ 376	△ 376	
(利息付) 第二種	事業費総額 (C)	6,762	7,586	823	
	財源	財政融資資金	6,694	6,564	△ 130
		財投機関債	1,200	1,200	0
		借入金償還等 (返還金)	△ 1,132 (5,876)	△ 178 (6,514)	953 (638)
利子補給金		0	1	0	

※合計及び増減は、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

#### 予算人員

(単位：万人)

区 分	令和元年度	令和2年度要求	比較増△減
合計	137.2	-	-
給付奨学金	4.1	-	-
第一種奨学金	56.6	56.6	0.0
第二種奨学金	76.5	86.3	9.8

※合計及び増減は、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

### 1. 所得連動返還方式とは

- 返還月額が、前年の所得（課税総所得金額）に応じて変動する方式

【返還初年度】 原則、定額返還方式の返還月額の半額

※ 経済的事情により返還困難な場合は、願出により最低返還月額（2,000円）での返還が可能

【2年目以降】 前年の所得に応じた返還月額（所得の9%÷12の金額）

### 2. 適用条件

- 平成29年度以降、第一種奨学金に採用となった奨学生
- 機関保証を選択していること
- マイナンバー（個人番号）を提出していること

### 3. 選択の時期

- 申込時に「所得連動返還方式」と「定額返還方式」のいずれかの返還方式を選択
- 貸与中は返還方式を自由に変更可能、貸与終了後は定額返還方式から所得連動返還方式への変更のみ可能

### 4. 選択状況

- 平成29年度末時点…15.7%
- 平成30年度末時点…15.6%

参考：定額返還方式を選択した主な理由（令和元年度4～6月採用者へのアンケートより）

- 所得に左右されず一定の返還月額で返還したかったから…70.4%※
- 親や高校の先生などから定額返還方式を勧められたから…42.4%※

※定額返還方式選択者のうち、上記回答を選択（複数回答可）した者の率

# 4. 所得連動返還方式 ②返還月額イメージ

## モデル

第一種奨学金を私立・大学・自宅生として4年間利用した場合 → 貸与総額 2,400,000円 (50,000円 × 48月)

### 1. 定額返還方式の返還例

返還月額・返還期間は貸与総額によって決定

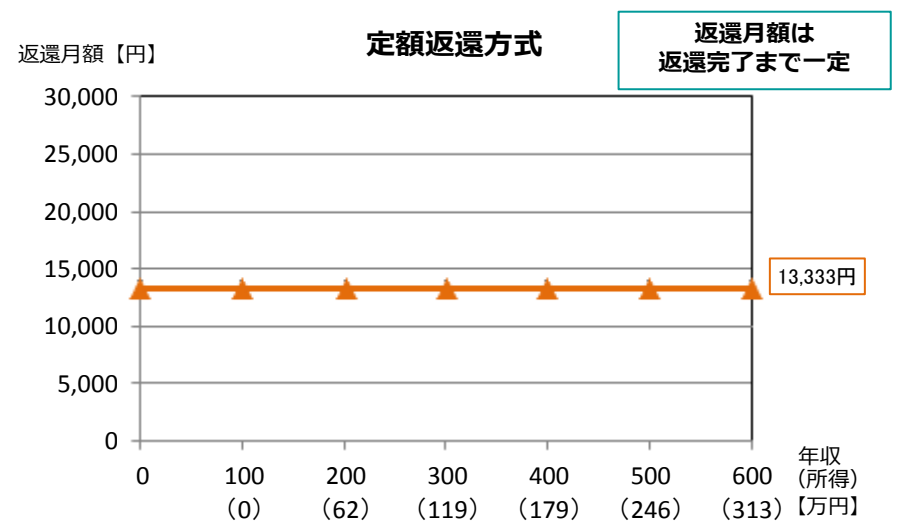
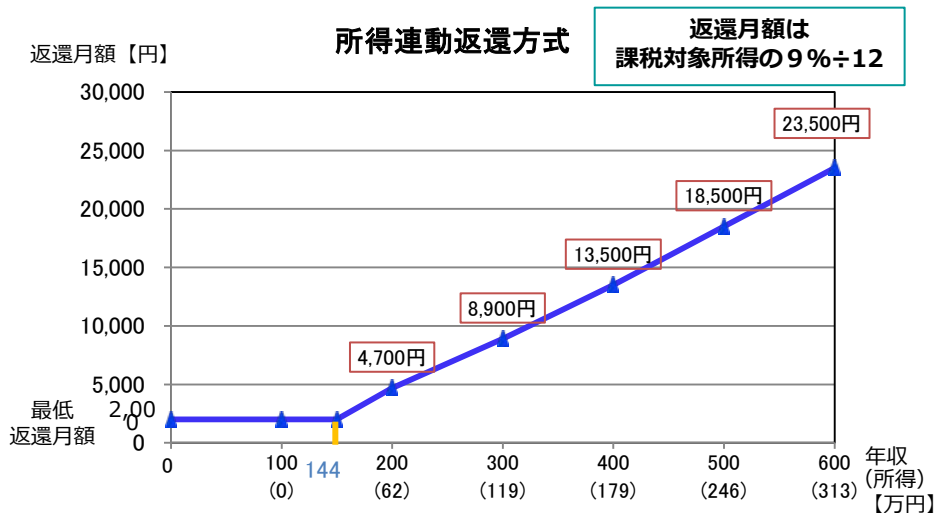
返還月額…13,333円                      返還期間…180ヶ月 (15年)

### 2. 所得連動返還方式の返還例

返還月額・返還期間は前年の所得に応じて変動

【返還初年度】 原則、定額返還方式の返還月額の半額 (13,333円 / 2 = 6,666円) (小数点未満切捨て)  
※経済的な事情により返還が困難な場合は、願出により最低返還月額 (2,000円) での返還が可能

【2年目以降】 前年の所得に応じた返還月額 (課税対象所得の9%を年額とした月割の金額)





# 5. スカラシップ・アドバイザーの派遣について（平成29年度～）

## 目的

スカラシップ・アドバイザー（以下、「アドバイザー」という。）が

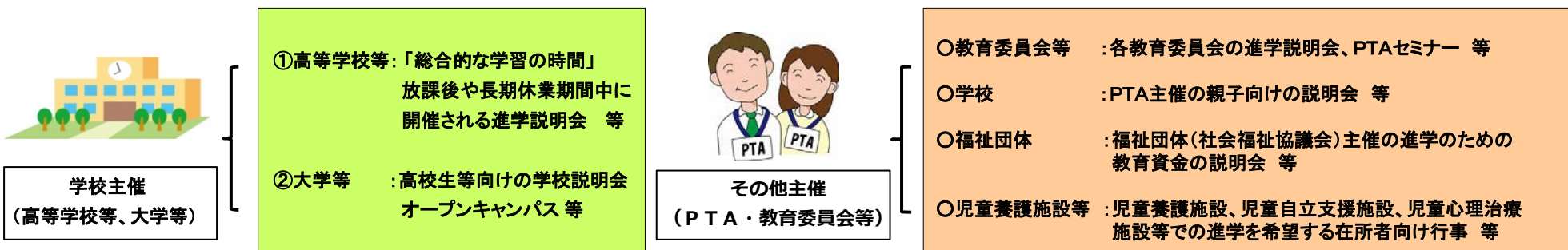
- 進学費用準備のための資金計画の説明・助言等を行うことにより、高校生や保護者などが進学を考えるにあたっての、経済的な不安を軽減させる。
- 高校生やその保護者などが、安心して奨学金を利用するための知識を提供する。

## 概要

日本学生支援機構が、高等学校等や大学等、あるいは、PTAや教育委員会、社会福祉団体等からの申込みに基づき、高校生やその保護者を対象とした学校行事等にアドバイザーを派遣し、進学のための資金計画の説明や奨学金の説明を行う「奨学金等進学資金ガイダンス」を開催する。



## 活用例



所要時間	「奨学金等進学資金ガイダンス」内容
30～90分程度	<b>全体説明</b> ・大学等への進学のための資金計画(奨学金事業の概略の説明を含む。)の説明 ・資金計画の作成方法の説明(参加者による資金計画の作成を含む。) ・質疑応答
30～90分程度 (※「全体説明」50分以上での申込みで、希望がある場合に限る。)	<b>個別相談</b> ・資金計画の作成への助言等 ・質問対応等

### (1) 事業拡大に向けた取組、サービス向上に資する取組

- 平成30年度から大学等における高校生等を対象にしたオープンキャンパス等への派遣を開始
- 平成30年度から社会福祉団体等における進学のための教育資金説明会等への派遣を開始

### (2) 令和元年度スカラシップ・アドバイザー更新プログラム

- 令和元年7月1日から8月31日の期間にe-learningを実施（対象者2,557名）
- 1,969名を更新。平成30年度認定者を含めると、2,367名

### (3) 派遣件数(予定含む、令和元年11月5日時点)

1,516件

【内訳】

令和元年度以降派遣件数：738件（派遣済 665件、派遣予定 73件）

<学種等別内訳>

高校等 : 481件

大学等 : 199件

その他（法人等） : 58件

平成29年度派遣件数：181件、平成30年度派遣件数：597件

## 進学資金シミュレーター

- WEB上で必要事項を入力することにより、進学のための資金計画を立てる際のシミュレーションを行えるシミュレーターです。
- 次の2種類のシミュレーションがあります。
  - ・ 学生生活費シミュレーション  
例示された平均的な費用を参考に学生生活を送るための収入と支出を入力することにより、必要な経費について理解を深めることができます。
  - ・ 奨学金選択シミュレーション  
保護者の年収、世帯構成、兄弟の修学状況等を入力することにより、利用可能な奨学金を診断できます。  
令和元年5月より給付奨学金シミュレーション機能が追加されました。



## 奨学金貸与・返還シミュレーション

- 貸与月額等の条件を設定し、返還総額・返還回数等を試算することができます。

